

提出締切： 1 1 月 1 5 日（金）

広尾町議会 研修レポート用紙

議員名 齋藤 弘樹

研修等の名称： 十勝管内議員研修会

○今回の研修を受講しての感想等をご記入ください。

十勝川の治水の歴史を中心に、非常に充実した内容でした。先人たちの知恵や
取り組みを伝えることは観光資源としての価値も大きく、こうした歴史を学ぶこと
により深く地域を知ることが出来ると感じました。
講師である開発局の方が「仕事柄、あまり知られていない絶景ポイントをたくさん
知っている」と述べていたのが印象的で、自治体と連携することで新たな魅力づ
くりが可能となるのではないかと感じました。
広尾町には十勝川こそありませんが、日高山脈や楽古川など、豊かな自然が
広がっています。こうした自然を背景に、広尾町はアドベンチャーツーリズムの
可能性に満ちた場所であると再認識しました。
た、「かわまちづくり支援制度」の道内外の先進事例を知ることができ、広尾町
に活用できることがあるか、今後調べていきたいと思います。

※提出いただいたレポートは、町ホームページに掲載することとしていますので、ご了承ください。（この用紙をPDFデータにして掲載します。）

広 尾 町 議 会

提出締切：11月15日（金）

広尾町議会 研修レポート用紙

議員名

尾矢 利昭

研修等の名称：十勝町村議会議員研修会

○今回の研修を受講しての感想等をご記入ください。

この度の「アドベンチャートラベルへの活用を視点の十勝川流域について学ぶ」を題材に十勝川の歴史から今後の活用にもけた可能性について研修を行った。かつて河川の氾濫を繰り返していた十勝川であったが、大型治水事業により、その流域には広大な農地へと変貌し国内屈指の農業大国となった十勝であるが、今後はさらに十勝川の歴史や流域に生きる動植物観察及びアクティビティ等の観光資源としての可能性、さらには河川敷等を有効利用した経済的活用方法を模索していくという内容であった。

本町の有する河川は十勝川水系ではないが、本研修を参考に国立公園となった日高山脈とともに流域に生息する動植物観察およびフィッシング等の観光資源としての活用、河川を活用した新たな養殖事業あるいは小型水力発電等の経済的活用など、豊かな自然をまもりつつも地域の振興、活性化に向けた取り組みへの可能性を感じる機会となった。

※提出いただいたレポートは、町ホームページに掲載することとしていますので、ご了承ください。（この用紙をPDFデータにして掲載します。）

広 尾 町 議 会

広尾町議会 研修レポート用紙

議員名 大庭 克彦

研修等の名称：令和6年度十勝町村議会議員研修会

○今回の研修を受講しての感想等をご記入ください。

今回の研修テーマである「十勝川流域における治水事業の変遷とアドベンチャートラベルへの活用」について、日頃から十勝川水系の治水事業に直接関わっている帯広開発建設部 治水対策専門官の話を聞きました。
本年度は十勝川水系の治水100周年を迎え、十勝川水系を中心とした様々なテーマでの検討会やシンポジウムが開催されており、あらためて十勝川水系が持つ魅力とポテンシャルについて語られており、十勝地域に住む者として十勝川がもたらした十勝地域発展の経過と今後の様々な可能性について今回の研修により再認識することが出来ました。
特に今回のテーマである「アドベンチャートラベルへの活用」に関しては、今まであまり関心の無かった十勝川流域の地層や生息する貴重な鳥類、ドラマのロケ地に使用された流域の景観など、まだまだ探求する魅力は多くあって十勝全体の観光資源として十分活用できるものであることを認識できたことは非常に有意義であったと思います。
また、あわせて現在まで行われてきた治水事業の必要性・重要性について防災対策も含めて再認識することができ、本町においても5つの河川を有することから、防災対策および観光資源としてあらためて本町河川のもつ機能と魅力について再考し、今後の「まちづくり」に取り組んで行きたいと考えています。
以 上

※提出いただいたレポートは、町ホームページに掲載することとしていますので、ご了承ください。（この用紙をPDFデータにして掲載します。）

提出締切：11月15日（金）

広尾町議会 研修レポート用紙

議員名

雄谷 幸裕

研修等の名称：十勝町村議会議員研修会

○今回の研修を受講しての感想等をご記入ください。

「アドベンチャートラベルへの活用を視点に十勝川流域について学ぶ」について、
帯広開発建設部 流域治水対策専門官 天羽 淳 氏の講演を拝聴しました。
広尾町は、十勝川流域とはまったく接点がなく、川を活用した自然とのふれあい、遊び、
文化交流を川との体験につなげてくことは、今まで考えて事はありませんでしたし、川に
視点を向けたこともありませんでした。
川を知ればその土地の歴史、文化、産業を紐解くことができ、川を利用すればもっと
発展できるということをこれまでの十勝の成り立ちからの講演内容でした。
川沿いに入植して、合流点で街が形成され、川が幹線道路になり、川が生活の中心
であったこと、農業大国の基盤に十勝川が大活躍してきたことが理解できました。
かわまちづくり支援制度が創設され、規制緩和による地域活性化が期待できる。
川を知ってもらい、つながって、河川空間のオープン化により、魅力がアップされ、川が
まちづくりに使えるとのことでしたが、広尾町に流れる7本の川をまちづくりに活用して
いくには、相当なる熟慮の必要性を感じました。

※提出いただいたレポートは、町ホームページに掲載することとしていますので、ご了承ください。（この用紙をPDFデータにして掲載します。）

広 尾 町 議 会

提出締切: 11月15日(金)

広尾町議会 研修レポート用紙

議員名 松田 健司

研修等の名称 : 十勝町村議会議員研修会

○今回の研修を受講しての感想等をご記入ください。

本日は「アドバンステープルへの活用」と共に講演を拝聴した。
十勝のまちづくり体験観光を河川利用の視点から、地域にこそ
差を込めた取り組み例が幾つも紹介され、アドバンセーターミルの取り組みが、
地域活性化につながっている事例を元に理解することができた。
十勝全体は昭和の時代だ。川筋(川並)に行き、魚を取り、薪を燃やして
食事をする)の文化があり、大人も子供も、楽しむ機会があったが、現在は、
変化した。河川に親しむ(自然に親しむ)事例は減り、40歳以下、
近年増え、地域住民の自然への関心が薄くなっていく事例も理解できた。
アドバンセーターミルの考えを、日高山脈国立公園内に伴う途次で伝える。
また、地域住民が自然との親和性を取り戻し、次の世代へつなぐ取り組みを、
いかに考え、実践していくべきか。これらの事を踏まえ、広尾町の議員として、
行政に様々な提案を行う。声を元に、子ども達を巻き込んだ取り組みを、
これから、継続して行こう。考える。良い機会になった。

※提出いただいたレポートは、町ホームページに掲載することとしています
ので、ご了承ください。(この用紙をPDFデータにして掲載します。)

広 尾 町 議 会

提出締切: 11月15日(金)

広尾町議会 研修レポート用紙

議員名 萬亀山ちず子

研修等の名称 : 十勝町村議会議員研修会

○今回の研修を受講しての感想等をご記入ください。

十勝町村議会議員研修会 令和6年10月30日

講演・「アドベンチャートラベルへの活用視点に

十勝川流域について学ぶ」

大正11年に十勝川は帯広開発建設部が新水路掘削、護岸工事が本格的に始まった。この治水事業が100年を迎えた。現代においては多くの流域人民の命と財産を守り、農畜産物地帯といわれるまでになった。十勝川流域は明治16年から何度も台風、低気圧にあうため、その度に河川改修工事が行われ現在では昔の川ではなく真っ直ぐになってしまったが、これまでに尽力された先人たちがいたことを忘れてはいけない。歴史を紐解き伝えていくことが大事であるとともに、文化、河川環境の保全も大事だと思います。

※提出いただいたレポートは、町ホームページに掲載することとしていますので、ご了承ください。(この用紙をPDFデータにして掲載します。)

広 尾 町 議 会

広尾町議会 研修レポート用紙

議員名 前崎 茂

研修等の名称 : 十勝町村議会議員研修会

○今回の研修を受講しての感想等をご記入ください。

今回の研修会は、「十勝川流域について学ぶ」のテーマで、十勝川に関する総合的なものであった。
地元にとって同川に直接的な関連はないものの、同河川敷でのゴルフやPG場を利用させてもらった等ある。なにより、カーブ・ゴムボート、イカダ下り等親水イベントはTVで見える程度である。
現在の十勝川は半世紀超にわたって見てきたが、改めて「十勝川治水100年」の長い年月をかけて治水事業にかかわった人達にリスペクトするところである。大正11年の大洪水から約80年間の治水事業は「境内新水路造成工事」など、続行していた同川を直線化した十勝川治水工事は、当時の機械力では苦難の連続であったことは容易に想像できるところである。
今日の「十勝農業王国」と共に礎となり、加えて、今日の国文者が推進する「かわない」等親水イベントの環境整備に尽力したことを再認識すると共に敬意を表したい。

※提出いただいたレポートは、町ホームページに掲載することとしていますので、ご了承ください。(この用紙をPDFデータにして掲載します。)

提出締切: 11月15日(金)

広尾町議会 研修レポート用紙

議員名 山谷 照夫

研修等の名称 : 十勝町村議会議員研修会

○今回の研修を受講しての感想等をご記入ください。

十勝川流域についての膨大な情報は共有財産であり、流域治水対策
専門官・天羽 淳講師による講話は新たな学びとなった。
十勝の代表的な十勝川流域に関して学ぶことは、十勝の歴史、文化、
産業、地質、地形、治水等を紐とけることを理解できた。
十勝平野の誕生や十勝への入植、開墾、開拓がわかってこそ、現在の
農業王国・十勝農業のブランドが誕生したと思う。それと共に十勝の社会
変遷、文化を知ることが出来ることを再認識した。
河川を直線化し、敷地の利活用を進めた歴史もありますが、一方で
日本の河川は急勾配で豪雨時には一気に洪水になりやすいとのこと。
そして、淀みがいなくなり、魚などが住みにくい、生態系への自然環境や
河口付近の海底に砂利が堆積するなどの課題も残る。
「かわたび」が注目の中、十勝川中流かわまちづくり、十勝川の空間を使って、
かわまちづくり支援制度(申請事業)や全国かわまち整備(特区指定)等で、
河川敷地のオープン化を考える時、十勝川の成り立ち、川づくり、川の文化を
知る、学ぶことの必要性を感じた。広尾町に、清流(中流)日本一の広尾川がある。

※提出いただいたレポートは、町ホームページに掲載することとしていますので、ご了承ください。(この用紙をPDFデータにして掲載します。)